

●技術情報

Q&A

[6] 作物別施用法（工芸作物他）

Q 6-9-5 サトウキビには、どんな使い方をしますか？

A6-9-5 サトウキビは、平成6年から品質取引（糖度によって価格差をつける）となったので、収量とともに糖度を上げるためにも“土づくり”が重要になってきます。

サトウキビ畑では、収穫残渣（ハカマ）が多量に残ります。このハカマは大切な有機質資源ですが、そのまま放置すると、サトウキビの萌芽が悪くなって欠株の原因となったり土壌害虫の発生源ともなりかねません。また、これを燃やしてしまえば大切な有機質資源が失われてしまいます。

そこで、サトウキビ刈取後のハカマは、畦間にひろげ石灰窒素を30～50 kg/10a 施用し、すぐ土にすき込むとハカマの腐熟を早め、さとうきびの収量、品質も向上します。

石灰窒素の施用後は、そのままでもよいのですが、さらに効果は高まっていきます。

表 6-9-1 サトウキビに対する石灰窒素の効果

（沖縄県北部・中部・南部普及所・1982～1984年、3カ年平均値）

区名	項目	一本茎重 (g)	ブリックス (度)	原料茎重 (kg/10a)	可製糖量 (kg/10a)	原料茎重比 (%)
対照区		1,182	18.1	8,886	1,006	100
石灰窒素	すき込み区	1,298	18.2	10,376	1,195	117
	放任区	1,240	18.2	9,422	1,086	106

注) 石灰窒素（粒）は、40 kg/10a 施用

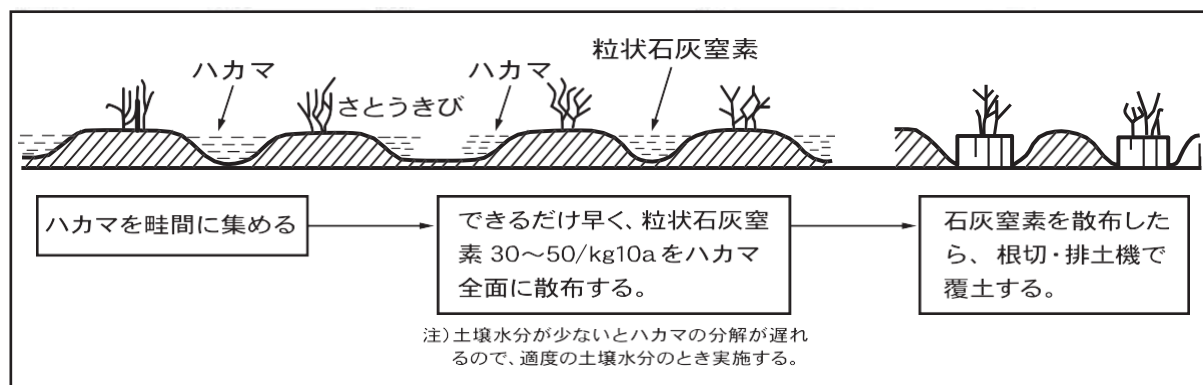


図 6-9-6 石灰窒素の使い方